

第38代本部長に 佐々木昌貴1等海佐着任



初めまして。私は、令和6年8月1日付をもちまして、第38代自衛隊長崎地方協力本部長として着任しました佐々木1等海佐です。

皆様におかれましては、平素から自衛隊長崎地方協力本部の業務に対して深いご理解と多大なご支援を賜り、自衛隊長崎地方協力本部を代表し、御礼を申し上げます。

また、自衛隊長崎地方協力本部が地域の皆様と防衛省・自衛隊とのかけはしとなるという責任の重さを考えますと、改めて気が引き締まる思いであり、その役割を果たすべく、真摯に取り組んで行こうと固く決意するところであります。

さて、我が国周辺の安全保障環境は、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境の中にあり、イスラエル情勢の緊迫はもとより、長期にわたるロシアによるウクライナ侵攻、我が国周辺における中国や北朝鮮の活動といった、力による一方的な現状変更の試みが強化されるなど、いくつもの国際社会共通の課題に対応しなければならぬ状況にあります。

発行所
自衛隊長崎地方協力本部
長崎市出島町2番25号
TEL. 095-826-8844



長崎地本公式HP



長崎地本公式 X



長崎地本公式 Instagram

国家を守る、
公務員。
自衛官募集中



8月1日付で、第37代自衛隊長崎地方協力本部長 伊東1等海佐は、補給本部(10条)にご栄転されました。



笑顔で、さわやかに！



第37代伊東本部長 離任式



第37代伊東本部長は、統率方針「県民とのかけはしになる」、要望事項「連携」を掲げ、令和4年12月から約1年8ヶ月の間勤務されました。着任時は、新型コロナウイルス感染症の影響により、地方協力本部業務に制約を受けておりましたが、次第に新型コロナウイルス感染症も落ち着き、各首長、協力諸団体の長等を訪問するとともに、緊密な連携を確立して、防衛省・自衛隊に対する県民の理解の促進と信頼継続に努めるなど、自身の要望事項である「連携」を率先して部員に示して頂きました。募集業務においては、厳しい募集環境が継続する中、学校訪問等を精力的に実施するとともにSNS等の有効活用等各部員を的確に指導されました。また、各種イベントにおいても、自らが陣頭に立ち、広報活動の機会を増やす等、自衛隊の魅力発信に大きく貢献されました。就職支援業務においては、優良な求人情報の獲得に努め、退職隊員のニーズに合致した就職援助を推進するとともに、退職隊員の再就職基盤を拡充されました。予備自衛官業務においては、予備自衛官等との連携強化を図るため、予備自衛官通信の刊行、予備自衛官の隊員自主募集等の充足数及び訓練出席率の方面目標達成に尽力されました。

離任式において、第37代伊東本部長からは、「皆の頑張りにより、自衛隊長崎地方協力本部は確実に進歩している。この進歩を止めることがないように、更なる躍進を期待する。」と激励を頂きました。最後に、部員の見送りを受け、第37代伊東本部長は笑顔で自衛隊長崎地方協力本部を後にされました。

「いのりの日」追悼行事へ参加



自衛隊長崎地方協力本部 島原地域事務所(所長 野口秀貴1等陸尉)は、6月3日(月)、島原市復興アリーナ敷地内にある、「いのりの日」追悼行事に参加した。この行事は、平成3年6月3日に発生した、雲仙普賢岳大火山砕流により犠牲となられた方々を追悼する行事で、島原市では、毎年この日を「いのりの日」と定め、今年で災害から33年が経過した。雲仙普賢岳大火山砕流による災害は、追悼行事を含め、市内の小中学校でも災害学習が行われるなど、この災害の記憶を風化させない取り組みも現在行われている。当日は、天候もよく慰霊碑では朝から関係者参列のもと献花が行われ、多くの参列者が現地を訪れた。また、大火山砕流が発生した「午後4時8分」には、島原市全域でサイレンがなり響き、多くの市民が黙とうを捧げ犠牲になられた方々を追悼した。



島原地域事務所は、当時災害派遣活動に携わった隊員の所感文などの雲仙普賢岳噴火災害資料や当時の災害派遣時のパネルを展示するとともに、慰霊碑前に展示してある、災害派遣に使用されたヘリコプター及び装甲車を参列した方々へ案内した。災害派遣の中でも、この災害は派遣期間1658日という最長のものであり、かつ自衛隊の装備を駆使した最初の災害派遣であった。

引き続き、島原地域事務所は、雲仙普賢岳噴火災害での自衛隊の活動や災害の教訓などを後世に伝えるため、島原市と連携するとともに、地域の方々からの信頼とご理解を一層深めていく所存です。(島原地域事務所)

学校対象広報活動、講話・講義を実施!

長崎市内は、佐世保市や大村市のように駐屯地や基地が無く、自衛隊の認知度がやや低い事もあるため、自衛隊長崎地方協力本部では今後とも自衛隊の存在や活動を知ってもらうことからはじめ、まず自衛隊の認知度を高め、ひいては多くの方が自衛官を志願してくる様努めていきたいとしている。



特別講義における質疑応答

伊東本部長(当時)からは、自身の自己紹介やこれまでの経験を踏まえ、自衛隊では定期的に安全保障を始めとした各種教育機会が設けられており、人というソフト面の成長に手厚い組織だということもまず説明された。続いて最近の中国海洋進出、北朝鮮やロシアの情勢を挙げ、日本の主権保護やシーレーン確保において、抑止力としての自衛隊の存在及び防衛に係る各種活動が、国の外交政策と並行して重要であることを話した。

自衛隊長崎地方協力本部(本部長 伊東圭市1等海佐(当時))は、5月10日、長崎大学のグローバル連携機構において、多文化社会学部留学生を含む60名の学生を対象に、「日本を取り巻く安全保障に対する自衛隊の役割」をテーマに、特別講義を実施した。同機構は長崎大学の特色を生かしたグローバルな教育研究活動を展開するとともに、世界的に活躍し得る人材育成を推進することを目的とした組織であり、昨今の我が国を取り巻く安全保障環境について自衛官から直接聞き取りという同機構からの要望に基づき実現したものである。



長崎大学にて特別講義

質疑応答では、聴講した学生から多数の質問があり、「シーレーンが崩壊した後、今の日本に出る影響や、中には平和都市長崎ならではの「自衛隊が武器を持つことの意味」を問う質問もあった。聴講した学生からは、安全保障に関わる自衛隊の活動について理解を深めることができ、分かり易く充実した講義だったとの言葉が寄せられた。

伊東本部長(当時)は、自身の自己紹介やこれまでの経験を踏まえ、防衛装備庁が実施している装備品のプロジェクト管理の視点から分析及び評価、必要な計画の見直しなどの実施状況を説明するとともに、海自の運用場面におけるマネジメントについても、公式チャンネルの動画を多用して説明した。

自衛隊長崎地方協力本部(本部長 伊東圭市1等海佐(当時))は、6月10日(月)、長崎総合科学大学の総合情報学部総合情報学科学科マネジメントコースにおいて、留学生を含む72名の学生を対象に、「自衛隊のマネジメント」をテーマとして特別講義を実施した。同学部は長崎総合科学大学の特色を生かした、ものまねでない新技術、未来を創造する高い技術力を展開するとともに、世界的に活躍し得る人材育成を推進することを目的とされており、自衛隊はその組織特性から常にマネジメントに取り組んでいる特性があるとの認識から、自衛官から直接取り組み状況を聞きたいという同学部からの要望に基づき実現したものである。



特別講義の状況

総合科学大学にて特別講義



聴講の様子



職業講話の様子



学校長表敬

講話終了後、担当の先生より非常に良い内容で生徒達にも貴重な話であったと好評であった。

講話では、経理隊長の自己紹介や自衛隊を知ったきっかけから志願までの話の続き、「海上自衛隊のワークライフバランス制度」、「女性自衛官の活躍推進動画」によって、防衛省・自衛隊の取り組みについて説明した。

また、入隊当初の練習艦や資材班長として初めて部下を持った話、海幕、米国防務での女性への待遇等の変化について実体験に基づく話を紹介し、生徒達は、熱心に聞いていた。

自衛隊長崎地方協力本部(長崎募集案内所長 森田秀喜1等陸尉)は、6月18日(火)、長崎県立長崎西高等学校(長崎市)の1・2年生560名、同校教職員20名に対し、海上自衛隊大村航空基地経理隊長池田弘美2等海佐による「女性活躍推進」をテーマに、職業講話を実施した。

当該講話は、「何事にも主体的に挑戦し、社会に貢献する、頼もしいリーダーの育成を図る。」という同校の教育方針に沿うものとして、昨今の女性活躍の推進が求められる社会情勢や、自衛隊の多様な業務特性を踏まえ、指揮官として勤務している女性自衛官から直接話しを聞きたいという同校の依頼に基づき実現したものである。

講話に先立ち、経理隊長及び自衛隊長崎地方協力本部副本部長による学校長への表敬により、同校の教育方針をはじめ、昨今の生徒の傾向などについて認識を共有した。

高長崎県立西高等学校にて職業講話



佐世保

芦屋

小倉

自衛隊統一募集広報 POWER ADVENTURE

自衛隊長崎地方協力本部本部長 伊東圭市1等海佐(当時)は、令和6年7月22日(月)～25日(木)の4日間、西部方面総監部が実施する三自衛隊統一募集広報「パワーアドベンチャー2024」へ募集対象者85名を引率した。

本イベントは、高校生等が陸海空自衛官の姿とその部隊を見学し、それぞれの自衛隊への理解を深めていただくとともに、自衛隊への入隊意欲を高めてもらうことを目的として毎年実施されている。

7月22日～23日は航空自衛隊芦屋基地において、第3術科学校学校長 北川英二(空将補)を見学したのち、陸上自衛隊小倉駐屯地において、第40普通科連隊(連隊長 佐藤靖倫1等陸佐)を見学した。7月24日～7月25日は、海上自衛隊佐世保基地において護衛艦等を見学した。芦屋基地では、救難ヘリなどの航空機等装備品の見学、小倉駐屯地では、軽装甲機動車の体験搭乗、佐世保基地では、護衛艦「じんつう」(艦長 萩尾隆二二等海佐)と補給艦「はまな」(艦長 根本征幸2等海佐)の見学を実施した。陸海空自衛隊の代表的な装備品を見学した高校生からは、「色々な職種があり興味があります。」などの高い入隊意欲のある感想が聞かれた。

自衛隊長崎地方協力本部は、長崎県内の多くの若者に自衛隊に対する理解を深め、自衛官志願の増加に繋がるよう引き続き積極的な募集広報活動に努めてまいります。

(募集課広報室)



自衛隊長崎地方協力本部(本部長 伊東圭市1等海佐(当時))は、令和6年7月27日(土)～7月28日(日)に実施された、2024ながさきみなとまつり「輝祭」に初めて参加した。

自衛隊の魅力発信するため、広報ブースの展開、ステージでの太鼓演奏、艦艇広報、海上パレード観覧支援を実施した。

広報ブースは、空目の待機パイロット1名及び護衛艦あさひの乗員各日2名(計4名)の支援を受け、制服試着体験やガラガラ抽選会、ブルーインパルスのパネル展示及び説明を実施した。2日間、広報ブースへの来訪者は約1000名だったが、多くは、高校2年生以下であったが、来年以降の自衛官獲得のためのアピールは大いにできたと感じた。

艦艇広報は、佐世保警備隊の水中処分母船05号の支援を受け実施した。みなとまつりのスケジュールとの関係上、一般公開は27日の午後4時～28日の午後2時程度しか出来なかったが、祭り目的で来た方々に1人でも多く自衛隊を周知した。特に、看板を持って祭り会場を歩いている集客、祭り会場入り口でのピラ配り案内等、様々な工夫を行い、短い時間だったが、来訪者は27日566名、28日572名、合計1138名と大盛況であった。

海上パレードは、民間商船会社グループと協力して海を多数の船が並んで通過する様子を、水中処分母船05号から観覧した。民間商船会社グループが着ぐるみや抽選会を実施し、招待者92名(内募集対象者30名)の方々にも大盛況であり、合わせて自衛隊の魅力についても発信できた。

自衛隊長崎地方協力本部は、県内各種イベントに積極的に参加することで、県民の皆様が自衛隊に対する理解を深めることに努め、一人でも多くの志願者獲得に繋がるよう引き続き積極的な募集広報活動に努めてまいります。

(募集課広報室)



自衛隊長崎地方協力本部本部長 伊東圭市(所長 森田秀喜1等陸尉)は、令和6年8月2日(金)から8月3日(土)までの間、ベルナード観光通りにおいて、浜んまち夏祭り2024に自衛隊広報ブースを出展した。

初日(8月2日(金))、陸上自衛隊第3水陸機動連隊(連隊長 高田剛一1等陸佐)の装備品展示(パジエロ、オートバイ)、ミニ制服試着体験、島原市ブルーインパルス飛行決定パネル展示やブルーインパルスVR体験を実施した。

2日目は(8月3日(土))は、前日に引き続き装備品展示(パジエロ)、ミニ制服試着体験、島原市ブルーインパルス飛行決定パネル展示、ブルーインパルスVR体験を実施した。

特に、装備品展示コーナーでは、多くの子供たちで賑わい、ミニ制服を試着してパジエロと記念写真を撮る家族など楽しそうな様子が多く見受けられた。

更にブルーインパルスVRを体験した子供は、「すごい!」とコックピットからの映像のリアルさを感じていた。

なお今回の自衛隊広報ブース来訪者は2日間で約1000名にのぼった。

自衛隊長崎地方協力本部は、今後も長崎県内の様々なイベントに参加し、多くの若者に自衛隊に対する理解を深めてもらい、志願者の増加に繋がるよう引き続き積極的な募集活動に努めてまいります。

(長崎募集案内所)

海上における救難救助訓練 (YDT05)

佐世保警備隊 水中処分母船5号 YDT-05 一般公開

長崎県総合防災訓練



左から長崎県知事、本部長(当時)、長崎市長

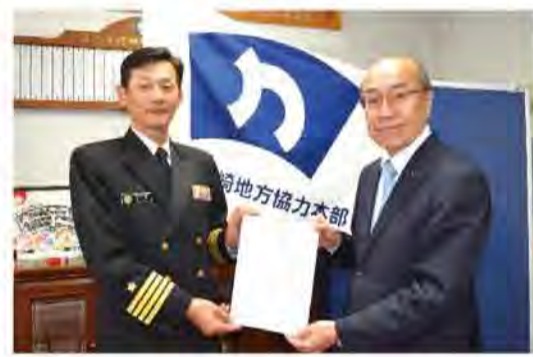
自衛隊長崎地方協力本部(本部長 伊東圭市1等海佐(当時))は、5月25日(土)長崎市の県庁前広場で行われた令和6年度長崎県総合防災訓練に参加した。本訓練は各種災害から県民の生命・身体・財産を守るため、自衛隊、警察、消防等、防災関係機関の連携の強化と有事即応態勢の確立、防災意識の高揚、普及を目的として、毎年、梅雨に入る前の5月に実施されており、今年は関係機関あわせて約600名が参加した。

各機関は、長崎市、時津町及び長与町で震度6の地震が発生するとともに、土砂災害警戒情報及び顕著な大雨に関する長崎県気象情報の発表、同市町全域に避難指示が発令され、道路の一部損壊、岸壁の一部損壊等の被害を想定下、機能別に救助活動の展示を実施した。自衛隊からは、陸自第16普通科連隊、海自佐世保地方総監部、同佐世保警備隊、空自西部航空方面隊が参加し、高層建物、海上における救難救助訓練等の実動訓練を展示した。

自衛隊長崎地方協力本部は、広報ブースにおいて災害派遣活動の写真及びデジタルサイネージによる動画を上映することで災害派遣における自衛隊の活動をPRしたほか、訓練終了後には第16普通科連隊の協力により偵察用オートバイ、高機動車の展示及び海自佐世保警備隊の協力によりYDT05の艦艇広報を実施し防災意識の高揚を図った。陸自オートバイは相変わらずの人気、YDTは災害時にも活躍が期待される特殊な支援船ということもあり、来訪者は興味津々の様子であった。また、昨今の自衛官募集難の情勢を深く認識されている長崎県知事と長崎市長も広報ブースに来訪され、募集にご協力頂いた。

自衛隊長崎地方協力本部は、各種防災訓練等の地域行事に積極的に参加し関係機関との連携を強化するとともに、募集難を少しでも改善するため自治体との連携も大切にしながら今後も募集活動に邁進する所存です。(総務課)

募集相談アドバイザー委嘱式



自衛隊長崎地方協力本部(本部長 伊東1等海佐(当時))は、4月23日(火)、本部庁舎において自衛隊長崎地方協力本部募集相談アドバイザー委嘱式を実施した。

自衛隊長崎地方協力本部募集相談アドバイザーは、昨今の厳しい募集現況を打開するため、幅広い知見を保有する一般の方の中から、特に学校教育への関与キャリア経験者を選考し自衛隊長崎地方協力本部の募集広報施策として新設したものである。

本部募集相談員(元私立高校進路指導教諭)兼ねて長与町議会議員の岡田義晴氏(過去の募集功労受賞歴、R2年防衛大臣感謝状、R1年西部方面総監感謝状、H26年本部長感謝状)が選ばれ、本部長より「委嘱状」及び「募集相談アドバイザー身分証明書」の交付を受けるとともに、記念撮影及び懇談を実施した。懇談では、自衛隊長崎地方協力本部としては同募集相談アドバイザーの主要活動として「進路指導教諭説明会及び募集相談員会同における参加者への講話」「広報官等の学校訪問へ同行し募集広報活動への助言」の他、自衛隊長崎地方協力本部が依頼する募集広報活動への協力等を期待しているところ、岡田氏も同主旨をよく理解されており、自身の経験を募集に役立てたいと熱く語られた。

自衛隊長崎地方協力本部は、様々な方々のご協力を得て今後も学校を始め募集関係者に対する理解を深めることに努め、募集有事と言われる現状打破に繋がるよう引き続き積極的な募集広報活動に努めてまいります。(募集課 企画班)

人事異動

昇格 令和6年4月1日付
 【行政職(2)6級へ昇格】
 本部総務課長 中村 公人
 【行政職(2)3級へ昇格】
 本部募集課 江藤 大輔
 【行政職(2)2級へ昇格】
 本部援護課 林 竜也

昇任 令和6年7月1日付
 【陸曹長へ昇任】
 本部総務課 松本 聡子
 島原地域事務所 松本 かつお
 【1等陸曹へ昇任】
 本部総務課 高橋 幸司
 【1等海曹へ昇任】
 諫早地域事務所 横田 美幸

転入 令和6年8月1日付
 ◎第21整備補給隊司令より自衛隊長崎地方協力本部本部長へ
 1等海佐 佐々木 昌貴

◎西部方面後方支援隊より相浦駐屯地援護センターへ
 2等陸尉 松崎 豊和

◎自衛隊福岡地方協力本部より対馬駐在員事務所へ
 陸曹長 小野 新一郎

◎第102高射特科隊より琴海地域事務所へ
 3等陸曹 渡邊 貴志

◎第2普通科連隊より本部募集課へ
 3等陸曹 丸山 健志郎

転出 令和6年5月31日付
 ◎本部総務課より大村航空基地隊へ
 海曹長 嶋田 とも子

転出 令和6年7月29日付
 ◎佐世保出張所所長より海上自衛隊呉基地業務隊付へ
 1等海尉 松本 良輔

転出 令和6年8月1日付
 ◎自衛隊長崎地方協力本部本部長より海上自衛隊補給本部企画管理部長へ
 1等海佐 伊東 圭市

退職 令和6年6月1日付
 ◎諫早地域事務所より第2高射特科隊本部付隊(飯塚)へ
 1等陸曹 加藤 多嘉子

◎自衛隊長崎地方協力本部島原地域事務所
 1等陸曹 鬼塚 祐樹

自衛官募集

インターネットからも応募できます
 自衛官募集 検索

募集フリーダイヤル
 コールセンター
 0120-063792
 年中無休 受付時間
 12:00~20:00